

登龍吾等

登龍中学校の教育目標

他を思いやり 自ら学び
鍛え合い やり切る生徒
～自学・共生・自立～

『なかまのしあわせ』・『一期一会』を願って。

登龍中学校 令和5年度 第77回卒業証書授与式 校長式辞より（一部）

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。

四月の始業式。私は皆さんに、「なかまのしあわせのために」について話をしました。「なかまのしあわせ」とは、「今、自分のできることを精一杯がんばって行うことでなかまが笑顔になる。そのなかまの笑顔を見て自分もしあわせなる。」ということ。そのために、自分づくり仲間づくりを行い、素晴らしい登龍中の伝統を創ってくださいと、お願いをしました。

体育大会では、各団、団長を中心に見事にまとまり、勝っても負けても涙していた光景が、今も目に焼き付いています。私が何より嬉しかったのは、皆さんがお互いの競技を見守り、応援する姿です。そこには、仲間一人一人を大切にすることがありました。今も感動の余韻が残る文化祭。コロナ禍により実施できなかった文化祭が四年ぶりに開催されました。「どんな風に歌っていたのだろう。」と手探り状態から始めた合唱の取り組みでしたが真剣に練習を積み重ね、最高学年として迫力のある「合唱」を見事に創りあげ、感動を与えてくれました。継承の会では、三年生の皆さんから、下級生に向け、登龍中伝統の三本柱「学習・掃除・合唱」が再度確認され、毎日の生活の中で、その伝統を更に磨いていこうと確認されました。以後、学校をよくしていこうとする、よい伝統が継承されています。こうして登龍中の顔として活躍してきた皆さんも、いよいよ旅立ちの時です。卒業生の皆さんの門出に際し、一つお話しします。

私は、今年一年、皆さんとは「一期一会」を大切に接してきました。

一期一会とは、「一生涯でただ一度の出会い」という意味で解釈しがちですが、本当の意味は少し異なります。たとえ毎日顔を合わせる家族や友人、仕事仲間であってもその日、その時の出会いは一生に一度だけで、二度と同じ日が戻って来ることがありません。だから「相手に対して精一杯の誠意を尽くしましょう」という意味があります。

毎日の「おはよう」 誰かに伝える「ありがとう」 一日の終わりの「おやすみ」も一期一会
見上げた空を見ること 離れている人を考える時間も ダメだと落ち込む時間も
自分の存在価値に気付けた瞬間も一期一会
楽しい日も 悲しくてただただ泣いている一日も 一瞬一瞬が一期一会です。

これから出会うご縁のある人だけでなく、家族や友人など毎日過ごしている人たちに対しても心を込めて接することが大切です。どんな形であれ出会えたことは奇跡なのです。それを必要とするかしないかは自分次第です。新しくチャレンジすることや自分と向き合う事など日々の出来事を当たり前と思わずに感謝の気持ちをもって勉強に部活に自分や仲間づくりに取り組んでいけることを願っています。